

人口減少対策調査特別委員会 会議記録

- 1 期 日 令和7年11月18日（火）
午前9時23分 開会
午前10時15分 閉会
- 2 場 所 第1委員会室
- 3 出席委員 委員長 西田 真
副委員長 荒木 慎太郎
委 員 太田 智博、芹澤 正志、
竹中 理、福田 嗣久、
森垣 康平
- 4 欠席委員 なし
- 5 説明員 （別紙のとおり）
- 6 傍聴議員 なし
- 7 事務局職員 主事 菅谷祐一
- 8 会議に付した事件 （別紙のとおり）

人口減少対策調査特別委員長 西田 真

人口減少対策調査特別委員会 次第

日 時：2025 年 11 月 18 日 (火) 9:30～

場 所：第 1 委員会室

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 自己紹介

正副委員長 → 各委員 → 当局 → 事務局

4 協議事項

(1) 委員会所管事項の事務概要について

【市長公室】 経営企画課

【くらし創造部】 地域づくり課

【コウノトリ共生部】 環境経済課

(2) 委員会の運営方針について

委員会重点調査事項（案）

(3) その他

委員会の席次について

5 閉 会

人口減少対策調査特別委員会名簿

【委 員】

2025年11月18日現在

職 名	氏 名
委 員 長	西 田 真
副 委 員 長	荒 木 慎太郎
委 員	太 田 智 博
委 員	芹 澤 正 志
委 員	竹 中 理
委 員	福 田 嗣 久
委 員	森 垣 康 平

【当 局】

職 名	氏 名
市長公室長	谷 口 雄 彦
経営企画課長	真 狩 直 哉
くらし創造部長	谷 岡 慎 一
地域づくり課長	宮 田 裕 史
こども未来部長	小 野 弘 順
こども未来部次長 兼こども支援課長	吉 本 努
こども未来課長	若 森 和歌子
こども未来課参事	丸 谷 祐 二
コウノトリ共生部次 長兼環境経済課長	瀬 崎 晃 久

9名

【議会事務局】

職 名	氏 名
議会事務局主事	菅 谷 祐 一

人口減少対策調査特別委員会設置要綱

1 設置の目的

豊岡市の人口減少に関する諸課題等を調査するため、地方自治法第109条及び豊岡市議会委員会条例第5条の規定に基づき、特別委員会を設置する。

2 委員会の名称

人口減少対策調査特別委員会

3 委員の定数

7名

4 付議事件

移住・定住促進、子育て支援、産業振興などに関する調査研究等

5 委員会の設置期間

調査完了の時期まで

6 調査の経費

議会費の中で議長の定める額

7 その他

設置期間中、議会の閉会中も継続調査できるものとする。

人口減少対策調査特別委員会重点調査事項（案）

2025. 11. 18

- 1 移住・定住促進に関する事項
- 2 子育て支援に関する事項
- 3 産業振興等に関する事項

午前9時23分開会

○委員長（西田 真） 皆さん、おはようございます。定刻前ではありますが、皆さんおそろいなので、ただいまより人口減少対策調査特別委員会を開きたいと思います。

それでは、着座で進めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

まず、委員長の挨拶ですけど、着座しましたけど。すみません、めっきり秋らしくいうか、冬らしくなりました。暑い暑い言う夏が過ぎまして、もう秋がほとんどないような状態で冬に来たかなと思ったりもしております。

皆さん、十分健康には留意していただきまして、人口減少対策調査特別委員会を含めまして、市政推進、発展のために一緒になって力を合わせて頑張ってまいりたいと思いますので、どうぞ1年間よろしくお願いいたします。

それでは、協議に入りますまでに、今回は役員改選後、初めての委員会でありますので、ここで出席者の皆さんに自己紹介をいただきたいと思います。

まず、正副委員長、次に委員、続いて当局職員は市長公室、くらし創造部、こども未来部、コウノトリ共生部の順でお願いいたします。最後に、事務局、お願いいたします。

それでは、よろしくお願いいたします。

まず、私、委員長からですけど、西田ですけど、1年間どうぞよろしくお願いいたします。

○委員（荒木慎太郎） おはようございます。副委員長の荒木です。1年間どうぞよろしくお願いいたします。

○委員（芹澤 正志） おはようございます。委員の芹澤です。よろしくお願いいたします。

○委員（森垣 康平） 森垣です。よろしくお願いいたします。

○委員（福田 嗣久） 福田と申します。よろしくお願いいたします。

○委員（太田 智博） おはようございます。太田と申します。お願いします。

○委員（竹中 理） 竹中です。よろしくお願いいたします。

たします。

○市長公室長（谷口 雄彦） おはようございます。市長公室長の谷口です。よろしくお願いいたします。

○経営企画課長（真狩 直哉） おはようございます。経営企画課長の真狩です。よろしくお願いいたします。

○くらし創造部長（谷岡 慎一） くらし創造部の谷岡です。どうぞよろしくお願いいたします。

○地域づくり課長（宮田 裕史） おはようございます。地域づくり課の宮田です。よろしくお願いいたします。

○こども未来部長（小野 弘順） こども未来部長の小野です。よろしくお願いいたします。

○こども未来部次長（吉本 努） こども未来部次長の吉本です。どうぞよろしくお願いいたします。

○こども未来課長（若森和歌子） こども未来課課長、若森です。よろしくお願いいたします。

○こども未来課参事（丸谷 祐二） おはようございます。同じくこども未来課の参事、丸谷です。どうぞよろしくお願いいたします。

○環境経済課長（瀬崎 晃久） おはようございます。コウノトリ共生部環境経済課長の瀬崎です。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局主事（菅谷 祐一） 議会事務局の菅谷です。よろしくお願いいたします。

○事務局次長（佐田美佐樹） 議会事務局の佐田です。当委員会の副担当です。よろしくお願いいたします。

○委員長（西田 真） ありがとうございます。自己紹介は終わりました。

続きまして、協議事項に入ります前に連絡をさせていただきます。

委員会中の発言につきましては、必ず委員長の指名を受けてから、マイクを使用し、発言の最初に課名と名字をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

それでは、4番目の協議事項に入ります。

まず、（1）番、委員会所管事項の事務概要について、それでは協議事項に入らせていただきます。

まず、（1）番の委員会所管事項の事務概要についてを議題といたします。

委員の皆さんは、Side Books上のフォルダー、人口減少対策調査特別委員会2025.11.18の中に配信しております資料をご覧くださいと思います。よろしいか。いいですか。

それでは、経営企画課、地域づくり課、環境経済課の順で説明をお願いいたします。

まず、谷口市長公室長からですね。違いましたか。

真狩さん、どうぞ。真狩課長。

○経営企画課長（真狩 直哉） 資料は3ページをお願いします。経営企画課からは、地方創生（人口減少対策）の推進についてです。

現況と課題です。人口減少は、まちの存続に関わる非常に大きな問題となっています。本市では、人口減少の量的緩和策を通じ、豊岡で暮らすことの価値と魅力を高める質的転換による地域活力の維持を同時に図りながら、総力を挙げた地方創生を戦略的に進めていく必要があります。

基本方針です。本市の地方創生総合戦略は、毎年度見直しを行っています。今年度、2025年度は、市の重要課題の一つである人口減少対策をより効率的、効果的に推進するため、2026年度からの後期市政経営方針と一体的に、第3期地方創生総合戦略を策定することとしています。

概要です。第3期地方創生総合戦略の策定です。策定時期は今年度末、2026年3月を予定しています。内容は、先ほどの基本方針のところでも触れましたが、後期市政経営方針の策定と並行し、第3期地方創生総合戦略の策定を進めることとしています。

進捗状況です。8月29日に地方創生戦略会議を開催しました。主な内容としましては、市の施策全般で人口減少対策に取り組むため、市政経営方針と一体的に総合戦略を策定する方針というのを確認し、委員の皆さんから意見等をいただきました。

経営企画課からは以上です。

○委員長（西田 真） 宮田地域づくり課長。

○地域づくり課長（宮田 裕史） 私のほうからは、移住定住・結婚支援・若者施策の推進につきましてご説明させていただきます。資料の4ページをご覧

いただきたいと思います。

こちら、現況と課題ですが、人口減少対策といたしまして、地方創生総合戦略にありますように、定住する若者の増加対策と、結婚する若者を増やすための結婚支援策を積極的に推し進める必要があるものというふうに考えております。

基本方針といたしまして、1のUターン促進、2の地域おこし協力隊の推進、3の結婚支援、4の若者交流促進の4点を上げさせていただいております。

それぞれ概要及び進捗状況につきましてご説明申し上げます。

1の移住定住の促進でございますが、1の（1）市の移住定住ポータルサイト「飛んでるローカル豊岡」によりまず情報発信を行っているところでございます。

（2）といたしまして、暮らしのパーラーによりまず土日を含みます移住希望者への対応、また、現地アテンド等を行っております。

移住者やUターンを希望していただいている方に対しまして、豊岡で働く魅力を含めた豊岡市内企業の求人情報の発信などを、（3）の仕事探しサイトや（4）ジョブサポ豊岡の運営を通じ、実施いたしているところでございます。

（5）といたしまして、Uターン就職促進のイベント等を行っております。実績につきましては記載のとおりでございます。

（6）のはたちを祝う会でございますが、こちら、今年度は1月11日の開催を予定いたしております。現在、実行委員と内容を詰めているところでございます。こちらにつきましては、一昨年度から参加者にLINE登録をしていただくという形態を取っております。そういった登録をすることによりまして、会の終了後におきましても、豊岡で行われますイベントの案内でありますとか、就職やUターンに結びつきそうな情報を届けるという取組が行われているということで、豊岡も就職先の一つというふうに意識してもらうための取組を進めてるところでございます。

また、(7)といたしまして、移住者の住まい探しを兵庫県宅建業協会但馬支部の協力をいただきながら行っているところでございます。今年度は66件の成約というふうになっております。

2といたしまして、移住の支援でございます。こちら5ページのほうにお進みください。(1)、(2)といたしましては、移住の検討段階から実際に移住されるまでの支援を行うための補助金等のもので、(1)につきましては、下見の際にお越しになる宿泊代、レンタカー代、航空運賃に対します補助、こちら9件を現在のところ交付いたしております。

(2)につきましては、実際に移住してこられた際の住宅改修、引っ越し、空き家清掃に係る費用の補助ということで19件交付をしているところでございます。

(3)といたしまして、市営住宅につきまして目的外利用というような形で、お試し住宅でありますとか移住促進住宅として活用しており、記載のとおり多くのところが埋まっている状況でございます。

続きまして、3の地域おこし協力隊の推進の関係でございます。11月1日現在で24名、男性13名、女性11名の協力隊員が活躍をさせていただいているところでございます。開始から委嘱者累計が114名となりまして、活動終了後の定住者は51名、約75%がそのまま卒業後も豊岡に残っていただいているということで、全国に比べても高い定住率を維持しているところでございます。募集は年2回行っておりまして、現在、12月の募集に向けまして準備を進めているところでございます。

続きまして、(2)といたしまして、隊員の活動支援でございますが、協力隊員へのサポートとして、隊員自身の活動でありますとか日々の生活の相談体制などを整備しているところでございます。

また、(3)といたしまして、起業を考える隊員に対しまして、起業補助ということで補助を実施しており、今年度は2件補助を交付しているところでございます。

4番目の結婚促進事業につきましては、(1)といたしまして、出会い機会創出事業ということで、

マッチングイベント「はーとピー」というイベントを毎月1回行っているところでございます。

(2)の縁むすびさん事業につきましては、独身者の登録者数が男性264名、女性139名の登録をいただき、また、お見合いの世話をいただくボランティア登録の縁むすびさんという方を36名登録いただいております。縁むすびさん事業といたしまして、お見合いの実施回数が205回ということでございます。

(3)になりますが、こちらは、先ほど(1)で申し上げました「はーとピー」は豊岡市の職員が実施しますが、3番につきましては民間、特に飲食店の皆さんが自主的に結婚イベントを開催していただくための補助といたしまして支援をしております。今年度3件実施いただいているところでございます。

(4)ですが、国の地域プロジェクトマネージャー制度を活用いたしまして、専門人材を昨年度の10月1日に任用させていただいております。このマネージャーと共に持続可能な結婚支援対策の検討を今、行っているところでございます。

5番目の若者の居場所づくり事業につきまして、6ページにお進みいただきたいと思います。こちら、昨年度からふるさと財団の地域再生マネージャー事業の補助金を受けまして、若者の居場所づくり事業といたしまして、豊岡未来スイッチというワークショップを4回開催しております。1月下旬には第5回目として成果発表会を開催することとしております。

また、若者交流イベントの実施ということで、6月4日には、専門職大学ゼミと連携いたしました豊岡いきいきプロジェクト、6月8日にはアイティ東側の芝生広場でペチャクチャナイト、11月7日には専門職大生企画のパンフェスなど、若者を中心とした企画の実施の実現と一緒に支援をしております。あと、12月にも2件程度、若者を対象とした事業を実施するという予定にいたしております。

地域づくり課からは以上です。

○委員長（西田 真） 瀬崎環境経済課長。

○環境経済課長（瀬崎 晃久） それでは、環境経済課が所管させていただいております産業の振興の中で、特に人口減少対策に寄与するものにつきましてご説明をいたします。7ページ、8ページをごご覧ください。

まず、現況と課題についてですが、域内の人口が減少化に進みますと、消費力も低迷します。あわせて、労働力が不足することによって、市内企業の多くがたくさんの課題を抱えている状況にあると認識しています。そのために各種支援が国県市合わせて必要となり、特に市内では、関係就業者数の多いかばん産業などにつきましては、国際競争力の強化についても必要があり、かばん産業のみならず全産業において稼ぐ力を高める必要があると認識しております。そのために、記載のある基本方針に沿いまして事務事業の推進を行っております。

概要及び進捗状況といたしまして、10月末現在の取組状況についてまとめております。主な取組につきましてご説明をいたします。

1つ目、内発型産業の育成及び地域経済の担い手育成の推進といたしまして、（1）に記載しております豊岡市経済ビジョンの基づく施策の検討といたしまして、市内の様々な支援機関の皆様が随時ヒアリングを行っております。あわせて、経済連絡会議を年3回行っており、直近では11月10日に開催し、意見として、労働力の不足につきましては、特に零細企業、建設業の皆様で慢性化しており、非常にお困りの状態にあると報告いただいております。また、9月末現在のハローワーク豊岡管内の有効求人倍率が1.44倍と依然高い水準になっていると伺っております。経営状態につきましては、多くの企業が物価高による原材料費の高騰分を十分価格に転嫁できておらず、加えて輸送費の高騰、人件費の増加が経営を圧迫している状況にあると報告いただき、認識をしております。

（2）です。成長を目指す企業や起業に取り組む若者、女性等に対する相談業務の実施といたしまして、開始から7年目となりましたビジネス総合窓口

のIPPO TOYOOKAの運営を行っております。この取組は、起業なさった皆様は商工会議所や商工会に入ってください、様々な伴走支援を受けられますが、起業をこれから始めてみようという方の相談窓口をつくって、引き続いて起業に向けての支援をしていこうという目的で、このIPPO TOYOOKAの運営を行っています。今年度の相談者数は52名、相談件数は112件と依然多くの起業を目指す皆様がおられるということを認識しています。

また、（3）にありますステップアップ支援事業ですとか起業チャレンジ支援補助金など、各種支援の実施といたしましては、ステップアップ支援補助金は15件、額にして1,975万6,000円の交付決定をいたしております。また、起業チャレンジ支援補助金は11件、額にして966万9,000円の交付決定をいたしております。どちらも2月末までの事業完了期間として鋭意取組を進めていただいております。参考までに、IPPO TOYOOKAですけれども、2019年の6月にスタートしまして、この6年間で相談件数は368件、そのうち実際に起業、創業につながりました方が55件いらっしゃったということで、今後も引き続き支援をしていきたいと考えています。

2つ目の項目です。特産品の振興といたしまして、（1）、（2）に記載しておりますかばん産業の人材の育成、豊岡かばんの認知度向上に取り組んでいただく鞆協会への支援を行っております。

簡単ですが、環境経済課からの報告は以上です。

○委員長（西田 真） ありがとうございます。

説明は終わりました。質疑、意見等はありませんか。どなたからでも。

竹中委員。

○委員（竹中 理） 4ページの移住定住のところですか。今日、事務概要なんで、そんな細かいところはあれだと思うんですけど、移住定住の中の市営住宅の目的外使用のところですけど、前回の質問のときにたしか、今、市営住宅が155部屋空いているというのはお聞きはしました。かなり多いなとは思っ

たんですけど、目的外使用の中で、豊岡市はお試し住宅とか移住促進住宅で使われてることはすごくいいことだなとは思んですけど、前の部長というか、富森部長の答弁ですけど、その中に目的外使用の中に子育て支援の住宅、子育てに関してそういった特化した、そういったことを考えてるというようなことを言われてたんですけども、部署が建築住宅課なんで違うと思うんですけど、こども未来部さんもおられるんで、何かあればご意見いただけたらなと思いますけど、どうでしょうか。

○委員長（西田 真） 若森こども未来課長。

○こども未来課長（若森和歌子） 建築住宅課から、そういったことを考えているという話を聞いています。ちょっと今はそれだけで。

○委員（竹中 理） ですね。それしか言えないと。

○こども未来課長（若森和歌子） すみません、とどめさせてください。すみません。

○委員長（西田 真） 谷口市長公室長。

○市長公室長（谷口 雄彦） 実際に今、制度の設計に入っていて、実施をする方向で取り組んでいます。市営住宅の空き住宅を、住宅を指定してですけども、子育て支援、子育て家庭を対象にした入居を促進しようということと、加えて、入居の収入基準を少し緩和して、入りやすくしようというようなことを今、検討しているところでございます。

○委員長（西田 真） 竹中委員。

○委員（竹中 理） ぜひ前向きにお願いします。

あと、もう1点ですけど、前のとき、ちょっと市民の方からあって、いっぱい市営住宅が空いてるんですけど、そこにも書いてありますように、修繕中っていうのがすごくたくさんあるんです。隣、部屋空いてるんだけど修繕中なんだっていうのがすごくあるんですけど、この辺の何で、多いかっていったらあれですけど、修繕しないといけなからされてると思うんですけど、すごい多いなと思うんですけど、その辺何かありますか。

○委員長（西田 真） 宮田地域づくり課長。

○地域づくり課長（宮田 裕史） ご指摘のとおり修繕中ということで、多いなというのはこの数字見て

いただいたらそうなのかなと。ちょっと表現が悪くて、待機中みたいな、予算の都合で修繕がまだ回ってこないみたいなことで建築住宅課からは伺ってるというところで、予算の中で優先順位をつけながら修繕、退去された後の修繕をしていってるということでは伺っております。以上です。

○委員長（西田 真） よろしいか。

○委員（竹中 理） いいです、いいです。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。

福田委員。

○委員（福田 嗣久） 今それぞれから聞かせていただきまして、全般に関わるんですけど、市長も臨時会で最重要課題として人口減少対策を捉まえているというふうな挨拶もされておまして、今、真狩課長からも最重要課題として効率的、効果的というふうにおっしゃっておりました。これをずっと何年も繰り返してるわけなんだけど、なかなか大変だなと私自身も思っておまして、その中で、こうして上っ面をなめるようなことしとってもなかなかだなという気がしてしまって、実のところ、もつのかなという気がするんです、地域が。もつのかないう言い方はおかしいですけども、この前、こども園の先生ともちょっと話しとったんですけども、2人か3人かの出生、私どものところですけども、いう状況の中で、効率的、効果的いうことは分らんことはないんですけど、もつのかなという気がしてしまってるんです、実は。当然、小学校の統合は早く、急ぐべき話だし、それはそれとして、地域がもつのかなという気がしておまして、この今の説明だけで。これは皆さん方も多分思っておられることじゃないかなと思うんですけども、豊岡全部を捉まえるんじゃないかなという気がするんです。それで何ができるのかな。例えば、結婚促進とか若者の交流促進とかいろいろおっしゃっておりますが、もちろん経済対策もそうなんですけれども、これを繰り返しててもつんか。ほんならどうしたらもつんかっていう話になってしまうんですけど、本当に今、私が申し上げたことで、別にそれぞれの部署のあれを関係なしに、

何かお答えできることがありますか。少子化対策のプロジェクトチームとして。問いが難し過ぎる。

例えば、今聞きながら考えとったんですけども、結婚促進、それから子供をできるだけ産んでいただく、若者に交流して来ていただく、そんなことはよく分かるんだけど、今、日本全国で子供を育てられない家庭があったりして、里親の制度もありますけれども、例えば、もう10人とか20人ばさっと連れてきて募るとか、あるいは地域おこし協力隊が今100組から来ていただいて、50人か60人か定住されてますけれども、その中で、例えば1歳、2歳、3歳、4歳、5歳ぐらいの子供を持つ家庭は、こんだけ出しますからぜひ来てくださいとか、それぐらい思い切ったことせんともたん違うかなと思ってしまうんですけども、これは市長しか答えられないんか、部長が代行して答えられるんか。

○委員長（西田 真） いかがでしょうか。

○委員（福田 嗣久） 里親の問題とか。

○委員長（西田 真） 谷口市長公室長。

○市長公室長（谷口 雄彦） 個々の施策につきまして、それぞれの担当のほうからお答えいただきたいと思いますが、人口減少対策の捉まえ方として、人口を増やしていくんだってというようなことはもう既になかなか難しい。ここに対して、人口減少を緩和していくということと、人口減少を受け入れながらも我々としてどう生きていくかっていう2つの視点が必要だと思ってまして、一つには自然増を増やすということと、もう一つには社会増を増やすということとあります。それはそれぞれやっておるところと思うんですけども、なかなかその結果が出てくるまでには相当の時間を要するということは前提として、一方、社会増っていうのはいろんな補助金とか交付金を制度を整えて、他の町から来ていただくって、これゼロサムゲームといいますか、こっちが増えるとどっか減っていくってことで、それに結構な投資をしてそういったことをしていくのかっていうことになると、やっぱり大きな政治的な判断が必要だと思いますし、今我々の中でそこに大きく向かっていこうというような雰囲気では

はないというのが今の豊岡市役所の雰囲気でございます。

○委員長（西田 真） 谷岡くらし創造部長。

○くらし創造部長（谷岡 慎一） どうもありがとうございます。数字で見ると、豊岡で大体100人ぐらい毎年移住があって、今でも地域おこし協力隊が20人から30人ぐらい常時いるって形ですので、全国的には割とかなり成功している部類なんだろうと思います。それを前提に、それでもということなんだと思います。年齢構成見ても、割と30代の人が多くて、地域おこし協力隊は、7割、8割方はもうそのぐらいの年代だと思いますので、割と若い人が多くて、子育て世代で来ています。但東にもいらっしゃってて、定住する目的で、太鼓やったりされておりますので、ですので、恐らくかさの問題なんだろうと思うんですが、一方で、かさを狙っていくと、我々かなり今、審査を一生懸命やってるんですが、募集を絞るというか、きっちりアフターケアを対応できるような団体であるとか、うちの所管課とかもしっかりやっていかないと、乱造してしまうというか、来ればどんどんいいですよってやってしまうと、お互いよからぬことが起こるかもしれませんので、割とそこはしっかりやっているつもりなんです。ですから、そういったこともしっかりやれているので、割と長く、もう七、八年になると思うんですが、ずっと全国でも10位以内ぐらいをキープしてきてるっていうふうに思っていますので、なかなかどこまで求めるかっていうのがあるんですけども、少なくとも今、地域おこし協力隊とか外から求めるのは、これでもそこそこやってるほうではないかなと思います。

あとは中のところをどういうふうに、特にUターンになると思いますが、そこはどういうふうに皆さんと一緒に考えていくかって、そこはまだ大きなところで、私も前職、前々職のときにいろいろトライしましたが、なかなか難しいんですよね。就職のフェアを大阪とか神戸でやったりとか、いろんなことしましたが、なかなか就職環境って、大学生の環境違うみたいですので、そんなもんで人來な

いとかいろいろありますので、なかなかこちらも打つ手を考えなきゃいけないので、そこは引き続き課題として持っていきたいと思います。以上です。

○委員長（西田 真） 福田委員。

○委員（福田 嗣久） 難しいことを投げかけて申し訳ないなと思いながらですけども、地域おこし協力隊も子供さんを持たれた人が但東に来ておられるっちゃうのはよく理解してますし、それ以外にもぜひということで受入れのこともしてますけれども、それでもなお、もつのかなという気がしてしまうので、先だって、自分ごと化会議、たんとう未来会議かな、こういう名称で会議が持たれて、若者をターゲットにということ。一番後ろでこうして見とったんですけども、どうだろう、30代が何人かぐらいで、あとはもう50代、60代、70代とかになってしまいうんで、若者と言われへんしなと思って見てたんですけども、そういう状況を目の当たりにしながら、自分事化も未来のことを考えるっていうこともよく理解しながらこんなことを言うてるんですけども、ただ、今申し上げたように、少子化対策は本当に難しいと思うんですけども、全国津々浦々同じようなことしとってもなかなかだと思ふし、今僕が端的に申し上げたように、もつのかなということは皆さんおっしゃってるんで、この辺はやっぱりきちんと頭に入れながら、これは皆さんだけじゃなくて庁舎全部で、市役所全部で考えるべきことで、そういうことを思っておられる人が多いということで、ぜひ、本当にぱっと明るくなるようなことも少しはやっていただきたいなと思って願っておりますので、よろしく。以上にしときます。

○委員長（西田 真） ほかにありませんか。

森垣委員。

○委員（森垣 康平） 産業の振興の部分でちょっとお聞きしたいんですけど、IPPOTOOKAの大変重要な施策の一つ、働くところがないとかいう意見をよく聞くもんで、これは大変重要な施策のような気がするんですけど、ちょっとまた分かれば教えてほしいんですけど、大体起業して10年もつ企業っていうのは少ない、大体1割、2割ぐらい

だっていうふうに聞くんですけど、この五十何件起業されたということをおっしゃったんですけど、どれぐらい続いているもんですか。皆さん引き続き頑張っておられる、その辺の調査をされてるのか、ちょっと教えてください。

○委員長（西田 真） 瀬崎環境経済課長。

○環境経済課長（瀬崎 晃久） 先ほど10年というご質問いただきまして、IPPPOからの創業支援というのが6年目になりますので、10年企業というのはまだゼロ件になります。私が認識している範囲で、2年目以降に経営状況の報告を義務化しております、98%の方が出していただいています。2%の方が出てないというのは、1件が休業されて、体調を壊されてご実家に帰っておられて、報告が出てないっていうのが1件。もう1件が今、休業からもう実際に廃業に向かおうとしておられるケースです。ですので、55件のうち1件、54件は今でも続けていただいているという状況です。以上です。

○委員（森垣 康平） すごい安心しました。ありがとうございます。

○委員長（西田 真） よろしいか。

ほかにありませんか。

荒木副委員長。

○委員（荒木慎太郎） どうしても人口減少対策っていうと、よそから人を引っ張ってくるっていう感覚が多いのかなと思うんですけども、一番の課題っていうのは、やっぱり高校生が出て、そっから帰ってこないっていうことだと思うんです。そこに対しての施策っていうのが、ちょっとここ、あんまり出てない部分があるんですけども、高校生の出たことを拒む必要はないんですけども、定住に対してどういう考えを持っておられるのかなというのを、ざっくりした質問で大変申し訳ないんですけども、ちょっと所感をお聞きできますかね。

○委員長（西田 真） 宮田地域づくり課長。

○地域づくり課長（宮田 裕史） 今、荒木委員のほうからもご指摘いただいたとおり、本当にUターンしていただくっていう中で、やはり高校生が高校卒業後に都会に憧れて出てしまうっていうところはし

ようがないところかなと思ってますので、高校までにどれだけ豊岡に対しての愛着を持っていたかということで、教育委員会等のほうでは、ふるさと教育とかいろんな取組をさせていただいているところでもございますし、私どものほうといたしましても、やはり高校生たち、今、若者事業でどちらかというと社会人だったり専門職大学の大学生が多いんですけども、やはりもう少し高校生たちの考えてることが実現できるようなことができないかなということのをちょっと来年に向けて考えていけたらなというふうなことを考えております。その中で、豊岡市では若者のやろうとしてることを応援してくれるんだというような風土だということを感じてもらって、少しは帰ってきてもらえないかなというふうなことは取り組んでいけたらなと思うところなんです。以上です。

○委員長（西田 真） 荒木副委員長。

○委員（荒木慎一郎） おっしゃるとおりだなと思って、いろんな若者の施策見てるんですけど、やっぱり社会人向けというか、高校生よりもちょっと年代が上の子に対する施策がどうしても目立ってしまうもので、もうちょっとそこら辺の施策の強化を今後してもらえたらなと思います。以上です。

○委員長（西田 真） 谷岡くらし創造部長。

○くらし創造部長（谷岡 慎一） ありがとうございます。実は今、若者事業をやっていて、専門職大学と一緒にやってまして、ゼミの人と拠点の整備をしたり、また、先々週ですかね、パンを、なかなか我々そんな発想にならないんですが、そうすると140個とか160個、何かいろんなパン屋さんから買ってきてやったら、売れ残ってたら仕方ないなと思って最後買いに行ったら、1時間もたたずになくなってしまっていて、そのときに日高高校の高校生も手伝いに来てくれて、新たな交流が始まっていたんです。ですので、何か仕掛けていって、場ができると高校生も、高校の先生が連れてきてくれたんですけども、やっぱりいろんな若者同士というか、先生同士のネットワークとかもあって、やっぱり何か仕掛けて、何かがあるから人が来るっていうところもあ

るんで、そこは積極的にいろいろやっていきたいというふうに思っています。以上です。

○委員長（西田 真） よろしいか。

ほかにありませんか。

福田委員。

○委員（福田 嗣久） 環境経済課で、このステップアップ、それから起業支援、いろいろ様子を見てるんですけども、さっき森垣委員も話をされた10年続く、98%という話なんだけども、起業するためのお金を補助するのはいいんだけど、見るとやっぱり参入障壁が低いところへみんな入っていくんで、参入障壁の高いことをしていただいて、10年なんかあっちゅう間だから、基本的には5年なんかも、企業として考えたら、5年なんかはほんまに入った入り口ですから、正味は10年以降ですわ。その参入障壁を物すごい越えにくいんで、そこへ応援するという。簡単に参入できるから、まずやってみなされという、この支援では面白くないんで、10年先に花が開くような起業家に対して支援をするということが本来だとずっと思ってるんですけども、その辺りの考え方がどういうふうなことがあるのか。あるいはまた、どうしていこうと考えるのか、ちょっと教えていただきたいと思います。

○委員長（西田 真） 瀬崎環境経済課長。

○環境経済課長（瀬崎 晃久） 委員ご指摘のとおりだと思います。先ほど申しました経済連絡会議、これを定期的にして、市内企業の皆様の現況を把握するとともに、本来豊岡市、末端自治体である市町村が起業支援として何をすべきかという議論も、政策金融公庫さんや金融機関の皆様とも連携を進めております。今現在は、これは自虐的に申し上げますけれども、まず国のほうが100億宣言企業でありますとか、いわゆる企業を大企業、中小零細、零細って区分けをされます。さらには、産業構造区分で、製造業でありますとかサービス業でありますとか、様々区分をされています。本来ですと、500万、1,000万というような支援制度をどんどんつくっていく、これがやっぱり本来の企業支援だというふうに思います。先ほど委員おっしゃったように、

50億の企業を100億にする、そこには100人の労働者の方が200人になる、また賃金もそこは増えるといった投資についても、市町村も積極的に取り組むべきであろうというふうに個人的には考えます。

しかしながら、財政の現状や実態を考えると、やはり国のほうがそういった大きな投資の支援制度を持っておられますので、商工会、商工会議所、様々な金融機関と連携して、現状の豊岡市の施策としては、国の制度を様々調べまして、1枚のページにして、これを、今日持ってまいりましたけども、4月当初に中小企業向けの支援制度一覧がありますよと商工会議所、商工会、金融機関の皆様、また市民の皆様と共有をしています。この中で豊岡市が持っているのが、先ほどご説明したステップアップ、少しの、中小零細に近い企業の皆様へのご支援、また、創業してみたいなという皆様の一部の支援と3,000万程度の予算総額でしているというのが実態です。やはり厳しい財政状況ということもございしますので、しっかり見据えながら、国の動向、県の動向、様々な支援制度をいち早く市のほうも情報をキャッチして、商工会議所、商工会の皆様からも教えていただいて、まず今ある支援制度、補助制度を正しく事業者の皆様にお伝えする、ここに注視をしているというのが実態です。取組状況につきましては、一生懸命、原課としては少しでも幅を大きく、額を大きく、率をなるべくたくさん支援できるような要望は続けていきたいというふうには考えておりますが、なかなか実態が伴っていないということで、非常に申し訳なく思っております。以上です。

○委員長（西田 真） 福田委員。

○委員（福田 嗣久） 今、課長のほうから説明をいただきまして、そのとおりの面もあるなと思って聞いているんですけども、やっぱり豊岡の経済が強くないということの前提で考えてますので、強くないんですわ。強くないんで、そこを強くするっちゃうのは、細かくばらまいてもなかなかだという気がするんで、もう一歩ぬきんでたような形が考えられないのかなということをやっていると、思っていることなので、ま

たよく検討していただきたいと思っております。以上。

○委員長（西田 真） 瀬崎環境経済課長、今持ったパンフレットか何か。それ事務局に渡して、ちょっとアップしていただけますか、ちょっと後で事務局に渡してください。そしたら、この委員会の中でアップしてもらいます。

○環境経済課長（瀬崎 晃久） ありがとうございます。

○委員長（西田 真） よろしくをお願いします。

ほかにありませんか。よろしいか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） ないようですので、以上で委員会所管事項の事務概要については終わりますが、この際、当局から何か発言はありませんでしょうか。ありませんか。（「言うてええよ」と呼ぶ者あり）よろしいか。

ないようですので、当局の職員の方は退席していただいて結構です。ご苦労さまでした。

暫時休憩いたします。

午前10時05分休憩

午前10時06分再開

○委員長（西田 真） 休憩前に引き続き委員会を再開いたします。

次に、（2）番の委員会の運営方針についてであります。

委員会としては、調査内容を絞り、より効果的、効率的な成果を上げるため、重点調査事項を決めて、それに沿って進めていきたいと考えています。ご参考までに、別紙1に当委員会の設置要綱、別紙2として当委員会の付議事件としております3つの事項を重点調査事項案として上げております。本日の事務概要の説明も踏まえた上で、委員会重点調査事項について協議をお願いいたします。

暫時休憩いたします。

午前10時06分休憩

午前10時07分再開

○委員長（西田 真） 委員会を再開いたします。

それでは、人口減少調査特別委員会重点調査事項案については、1つ目に移住・定住促進に関する事項、2つ目に子育て支援に関する事項、3つ目に産業振興等に関する事項ということで決定をさせていただきます。ありがとうございます。

それでは、これらの項目を当委員会の重点調査事項として決定させていただきますけど、ご異議はございませんでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） 異議がないようですので、そのように決定いたしました。

それでは、次回の委員会で特に調査を進めていきたい項目があればご協議をいただきたいと思います。

暫時休憩します。

午前10時08分休憩

午前10時14分再開

○委員長（西田 真） それでは、委員会を再開いたします。

次回ですけど、こども未来課の子育て支援の事務概要も含めて調整をしていただき、協議を進めたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

これについてご異議ありませんね。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） 異議なしということで、そのように決定させていただきます。

それでは、（3）番のその他です。

次に、委員会の席次についてであります。

本日は会派構成に配慮した形で着席していただいております。今は仮議席ですけど、皆さんのご意見があればお聞かせください。

暫時休憩します。

午前10時14分休憩

午前10時14分再開

○委員長（西田 真） 委員会を再開いたします。

席次については異議がないようですので、現在の

席次を決定させていただきます。

その件についてご異議ありませんね。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） 特に異議がないようですので、そのように決定いたします。

そのほか、この際、何か発言がありましたらおっしゃっていただければと思います。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（西田 真） ないので、以上をもちまして委員会を閉会いたします。お疲れさまでした。

午前10時15分閉会
